

272 120/17

真珠湾攻撃を極秘協議

真珠湾攻撃の作戦案を練るよう指示したとされる「1ビル」の応接室
鹿屋市西原3丁目



旧海軍ビル 解体へ

鹿屋市の海上自衛隊鹿屋航空基地にある旧日本海軍時代から使われてきた庁舎2棟の建て替えが決まった。太平洋戦争の戦端を開いた真珠湾攻撃の作戦を極秘協議したとされる応接室もある「歴史の証人」は、2015年春の新庁舎完成後に取り壊される。

耐震強度が不足

同基地によると、2棟は軍基地が開隊した1936「1ビル」(4階建て、延(昭和11)年に建てられた。床面積約4千平方メートル)と真珠湾攻撃の作戦について密談した「鹿屋会談」の約4200平方メートル。旧海軍舞台になったのは1ビル内



真珠湾攻撃の作戦案を協議した「鹿屋会談」の舞台となった「1ビル」の応接室に移築される「1ビル」の壁の装飾
鹿屋市西原3丁目

海自鹿屋基地

の応接室。41年2月、連合艦隊司令長官、山本五十六の命を受けた第11航空艦隊の大西瀧治郎参謀長が、第1航空艦隊の源田實参謀に米太平洋艦隊の本拠地であるハワイ・真珠湾の奇襲作戦の案を練るよう指示したとされる。

2棟は自衛隊発足後も十数回にわたる改修を重ねながら使用されてきた。だが、耐震強度不足が判明し、2棟を集約した5階建ての新庁舎(延べ床面積約6700平方メートル)に建て替えることが決まった。

歴史的価値から応接室の保存を望む声もあり、海目では改修の手が入っていない壁の装飾の一部を新庁舎に移築する。新庁舎のデザインにも現庁舎の面影を取り入れる方針だ。杉本孝幸・第1航空群司令(50)は「できるだけ旧海軍から続く歴史や伝統を残したい」と話した。(上山智子)